

市負担金路線の現状と対策素案

1. 北部ルート（京阪バス株式会社）

【利用状況】

当初の運行目的の一つである『福祉バスとしての機能（宝生苑経由）』が満足に發揮できているとは言い難いが、バス利用の状況としては、既存バス路線（自主路線）の機能が弱い地域（一休ヶ丘、山手東、岡村、西八、松井、市役所）への貴重な交通手段としての利便性向上に寄与しているといえる。

また、2018年度（平成30年度）には関西外国語大学の移転（学研都市キャンパスにある英語国際学部（収容定員3,000人）を御殿山キャンパスに移転）が予定されている。それに伴う穂谷バス停を起点としたバス路線網の動きも注視しながら継続的に検証する必要がある。

【採算性】

市からの運行負担金を補填してもなお赤字路線となっている。

【対策案】

今後は関西外国語大学の移転の影響も考えたなかでの路線網の検証が必要になることから、当面の間は、ソフト対策を実施していく。ソフト対策では、一層の利用促進を図るため、立ち寄り先となる地域などにバス運行時刻表やルートマップなどの配布や回覧を行い、バス利用の促進等についての広報（広報京たなべ、ホームページ等を活用）に努める。

2. 中部ルート（奈良交通株式会社）

【利用状況】

当初の運行目的の一つである『福祉バスとしての機能（常磐苑経由）』が満足に発揮できているとは言い難い。

また、その他方面への利用者数も少ない状況である。利用者が少ない主な要因としては、立ち寄り先が多く、主な目的地となる鉄道駅への直接的なアクセスとなっていないことや、便数が少なく、利用しにくい状況にあることが伺える。

【採算性】

市からの運行負担金を補填してもなお赤字路線となっている。

【対策案】

鉄道機能や他のバス路線（自主路線）の機能と重複する路線を廃止するなどバス路線経路の見直しを行うなど、バス利用者がバス発車時刻などを分かりやすくするためのパターンダイヤ化を検討する。

また、一層の利用促進を図るため、立ち寄り先となる地域などにバス運行時刻表やルートマップなどの配布や回覧を行い、バス利用の促進等についての広報（広報京たなべ、ホームページ等を活用）に努める。

中部・南部ルートの一体的な利用やダイヤ編成（中部・南部ルートとの連絡、鉄道との接続）も視野に入れた検討を行う。

3. 南部ルート（奈良交通株式会社）

【利用状況】

当初の運行目的の一つである『中山間地域の高齢者移動支援』としての機能が満足に発揮できているとは言い難い。また、その他方面への利用者数も少ない。利用者が少ない要因としては、三山木～水取が6便（／日）、水取～高船が2便（／日）と便数が少なく、利用しにくい状況にあることが伺える。

【採算性】

市からの運行負担金を補填してもなお赤字路線となっている。

【対策案】

バス利用者がバス発車時刻などを分かりやすくするためのパターンダイヤ化を検討する。また、一層の利用促進を図るため、立ち寄り先となる地域などにバス運行時刻表やルートマップなどの配布や回覧を行い、バス利用の促進等についての広報（広報京たなべ、ホームページ等を活用）に努める。

中部・南部ルートの一体的な利用やダイヤ編成（中部・南部ルートとの連絡、鉄道との接続）も視野に入れた検討を行う。